

作物名	薬剤名	使用目的	品種及び作型	特徴及び注意事項
かんきつ	マデック (MC P B乳剤)	ヘタ落ち防止	かんきつ	1. 本剤はホルモン剤であり散布条件によって薬効・薬害に影響が現れやすいので他の薬剤との混用は避ける。 2. ペノミル、チオファネートメチル、イプロジオン、イミノクダジン酢酸塩、水和硫黄剤、石灰硫黄合剤、マシン油乳剤、クレフノンとの混用はさしかえないが、他の薬剤との混用は避ける。 3. 展着剤を加用すると効果的である。 4. 散布直後の降雨は効果を減ずるので天候を見極めてから散布する。 5. 使用の際は薬液が果梗部を中心に葉先からしたり落ちない程度に樹全体にムラ無く散布する。 6. 長期間常温貯蔵する場合に使用すると効果的であるので、短期間貯蔵あるいは低温貯蔵する場合には使用しない。 7. 極端に樹勢の強い樹や弱い樹または幼木では使用を避ける。 8. 着色前及び着色初期には、着色遅延のおそれがあるので使用しない。
		後期落果防止	かんきつ	
		冬期落葉防止	かんきつ	
かんきつ	マデックEW (MC P B乳剤)	ヘタ落ち防止	かんきつ	1. 本剤はホルモン剤であり散布条件によって薬効・薬害に影響が現れやすいので他の薬剤との混用は避ける。 2. ペノミル、チオファネートメチル、イプロジオン、イミノクダジン酢酸塩、水和硫黄剤、石灰硫黄合剤、マシン油乳剤、クレフノンとの混用はさしかえないが、他の薬剤との混用は避ける。 3. 展着剤を加用すると効果的である。 4. 散布直後の降雨は効果を減ずるので天候を見極めてから散布する。 5. 使用の際は薬液が果梗部を中心に葉先からしたり落ちない程度に樹全体にムラ無く散布する。 6. 長期間常温貯蔵する場合に使用すると効果的であるので、短期間貯蔵あるいは低温貯蔵する場合には使用しない。 7. 極端に樹勢の強い樹や弱い樹または幼木では使用を避ける。 8. 着色前及び着色初期には、着色遅延のおそれがあるので使用しない。
		後期落果防止	かんきつ	
		冬期落葉防止	かんきつ	
温州みかん	クレフノン (炭酸カルシウム水和剤)	浮皮の軽減及び果皮水分の減少促進(予措効果)	温州みかん	1. 調製した薬液は放置すると沈殿するので、たえず攪拌しながら使用する。 2. 石灰硫黄合剤と混用することができる。 3. リン酸を多く含む葉面散布肥料との混用は行わない。 4. 極端に樹勢の低下した樹への散布や高温時の散布は避ける。 5. 着色の早い品種での秋期処理は、着色開始期までに終了する。 6. 収穫間近の散布は、果実によごれを生じるので留意する。
温州みかん	ビーエー液剤 (ベンジルアミノブリン液剤)	新梢発生促進	温州みかんの加温施設栽培	1. 加温後の2回以上の散布は果実の品質に悪影響を及ぼすことがあるので1回散布を厳守する。 2. ボルドー液、塩基性塩化銅などの無機銅剤との近接散布は避ける。 3. 着花が多いと予想されるハウスや樹、また樹勢の弱い樹には使用しない。 4. 加温ハウス栽培園で新梢発生促進に使用する場合は、着花が減少するおそれがあるので、収穫、剪定後できるだけ早い時期に使用する。 5. 処理後はハウス内が高温(25～27℃)にならないようにする。 6. 調製した薬液は放置すると効果が低下するため、調製当日に使いきる。また調製液は日陰に置く。 7. 他の農薬との混用は避ける。
		着花促進	温州みかんの早期加温ハウス栽培	
温州みかん	セルバイン (塩化カルシウム・硫酸カルシウム水溶剤)	浮皮の軽減	温州みかん	1. リン酸を多く含む葉面散布肥料との混用は行わない。 2. 極端に樹勢の低下している樹への散布や異常な高温時、ホタル尻期の散布は避ける。 3. 着色の早い品種での秋期処理は、着色開始期までに終了する。 4. 本剤は吸湿性があるので開封後できるだけ使い切る。やむを得ず保管する場合は、密閉してなるべく速やかに使い切る。
温州みかん	ジベレリン液剤 (ジベレリン液剤)	浮皮の軽減	温州みかん	1. 処理により着色が遅延することがあるため、貯蔵用または樹上完熟の温州みかんに使用する。 2. 使用に当たってはその都度溶解調整することが望ましい。溶解後放置すると効力が低下する場合があるので、なるべく調整当日に使い切る。 3. ボルドー液等アルカリの強い薬剤との混用は避ける。
		花芽抑制による樹勢の維持	温州みかん	

作物名	薬剤名	使用目的	品種及び作型	特 徴 及 び 注 意 事 項
かんきつ	ジベレリン液剤 (ジベレリン液剤)	花芽抑制による樹勢の維持	かんきつ (不知火、ぼんかん、かぼす、はるみ、ワシントンナール、日向夏、すだち、平兵衛酢、長門ユズ姫(無核)、温州みかん、きんかんを除く)	1. 衰弱した樹勢のものに使用しても期待した効果が得られない場合があるので、衰弱した樹には使用しない。 2. 低温が続いた年(極端な低温の年)または花芽の減少が予測される裏年の場合は、遅い散布の低濃度処理を心がける。 3. 果実に付着すると着色遅れや葉斑を生じることがあるので、隣接園地への飛散に注意する。 4. 使用に当たってはその都度溶解調整することが望ましい。溶解後放置すると効力が低下する場合があるので、なるべく調整当日に使い切る。 5. ボルドー液等アルカリの強い薬剤との混用は避ける。
かんきつ	フィガロン乳剤 (エチクロゼート乳剤)	全摘果	温州みかん	1. 全摘果で使用する場合、エスレル10液剤の2,000～8,000倍液と混合して摘果したい部分に散布することにより、散布した部分のみ全摘果することができる。 2. 間引き摘果と熟期促進との同時目的で使用する場合、1回目は満開20～50日後、1,000～2,000倍、2回目は満開70～80日後(収穫14日前まで)、2,000～3,000倍で散布する。 3. 果径が25mm以上になると摘果効果が極端に低下するので注意する。 4. 石灰硫黄合剤、ボルドー液などとの混用または本剤散布の10日前から1～2日後までの近接散布は避ける。また、他の薬剤との混用・同日散布は避ける。特にマシン油乳剤散布後は落果が助長されるので注意する。 5. 7～8年以上の樹勢の安定した成木に使用し、樹勢の弱い樹や若木では使用しない。 6. 気温が高い(30℃以上)場合、あるいは樹勢が強い場合は落果過多になりやすいので注意する。 7. きんかんの3番果の摘果、4番果の摘果、熟期促進、夏秋梢伸長抑制にも登録があるが、本県での効果及び葉害の発生については確認されていない。
		間引摘果	温州みかん	
		熟期促進	温州みかん	
			カンキツ(温州みかん、きんかんを除く)	
		浮皮軽減	温州みかん	
		夏秋梢伸長抑制	温州みかん	
			カンキツ(温州みかん、きんかんを除く)	
かんきつ	ターム水溶剤 (NAA水溶剤)	摘果	温州みかん	1. 調整した薬液はその日のうちに使用する。 2. 散布条件によって薬効葉害に影響が現れやすいので他剤との混用は避け、時期を逸しないよう散布する。また、アルカリ性農薬を本剤散布前後に近接散布することは避ける。なお、マシン油乳剤を近接散布すると旧葉が落葉することがあるので注意する。 3. 散布直後の降雨は効果が減ずる要因となるので、天候を見極めてから散布し、重複散布は避ける。 4. 極端に樹勢の弱い樹では使用を避ける。 5. 摘果を目的に本剤を使用する場合は、一次生理落果発生期(満開10～20日後)または二次生理落果発生期(満開20～40日後)で合計1回とし、2回使用しない。 6. 全果実の摘果を目的とする場合は樹全体に、部分的に全摘果したい場合は摘果したい部分のみに散布する。 7. 間引き摘果に使用する場合は、薬液が葉先から滴らない程度にむらなく、樹冠上部にたつぷり、下部にうすく散布する。 8. 極微量で植物ホルモン効果を示すので周辺作物にかからないようにし、使用後の散布器具等は十分洗浄する。
			かんきつ(温州みかんを除く)	
		夏秋梢伸長抑制	温州みかん	
かんきつ	フィガロン乳剤 (エチクロゼート乳剤)	着色促進	松本早生	1. 登録上は他の品種でも使用できるが、本県での効果及び葉害の発生については確認されていない。 2. 本剤は露地栽培以外では使用しないください。 3. 極端な老齢樹や樹勢の弱い園では効果が劣ることがあるので、樹勢の安定した園で使用する。 4. 低温年や異常乾燥年では、効果が劣ることがあるので注意する。 5. 石灰硫黄合剤、ボルドー液などとの混用または本剤散布の10日前から1～2日後までの近接散布は避ける。また、他の薬剤との混用・同日散布は避ける。特にマシン油乳剤散布後は落果が助長されるので注意する。
			富有 太秋	
もも	サンキャッチ液剤30S (コリン液剤)	果実肥大促進	—	1. 希釈時は濃度を均一にするために充分にかきまぜる。 2. 散布当日の降雨は効果を減ずるので、天候を見極めてから散布する。
ぶどう	CX-10 (シアナミド液剤)	休眠打破による新梢の萌芽促進及び発芽率の向上	ぶどう	1. 樹体の栄養状態、休眠覚醒度(低温遭遇時間)により発芽促進効果が変動するので、適切に処理を行う。 2. 降雨により希釈され効果が減少するため、散布後24時間は降雨に遭わないよう、天候を見極めて散布する。なお、散布後雨が降った場合でも、再散布は行わない。 3. 処理後にハウス内が高温乾燥状態で経過すると葉害の原因となるので、灌水などで湿度を保持し、湿度管理を徹底する。 4. 浸透性のある展着剤を加用する。 5. 塗布の場合は、休眠芽のみに処理を行う。 6. 他の農薬等と混用をしない。 7. 使用前後の24時間は飲酒しない。 8. 施設内で使用する場合は換気に気を付ける。 9. 同じ効果を持つ薬剤等と併用しないこと(効果が強くなり、葉害(芽枯れ等)の原因になる)。

作物名	薬 剤 名	使用目的	品種及び作型	特 徴 及 び 注 意 事 項			
ぶ ど う	フラスター液剤 (メピコートクロリド液剤)	新梢伸長抑制	デラウェア (露地栽培)	1. 散布が遅れると効果が劣るので、適期に行う。 2. 新梢及び花穂にもかかるようにする。 3. 花穂の伸長が抑制される場合があるので整形はやや長めに残す。 4. 重複散布になると薬害のおそれがあるので注意する。 5. 農薬との混用は原則として行わない。			
			デラウェア (施設栽培)				
		新梢伸長抑制 着粒増加	巨峰系4倍体品種 (巨峰を除く)				
ぶ ど う	ジベレリン水溶剤 (ジベレリン水溶剤) ・ジベラ錠 ・ジベレリン粉末	無種子化 果粒肥大促進	ヒムロッドシードレスを除く2倍体米国系品種 [無核栽培]	1. ぶどうに関する作物名中の品種による区分は、ジベレリンに対するぶどうの反応性の違いを考慮した区分なので、ぶどうの品種がどの区分(品種群)に該当するか、関係機関に確認してから使用すること。 2. 下記3.の「ぶどうの品種による区分」に記載のない品種に対して本剤を初めて使用する場合は、関係機関の指導を受けるか、自ら事前に薬効及び薬害を確認した上で使用すること。 3. ぶどうの品種による区分 (1) 2倍体米国系品種 「デラウェア」「マスカット・ベリーA」「アーリースチューベン(パッファロー)」「旅路(紅塩谷)」 (2) 2倍体欧州系品種 「ロザリオ ピアンコ」「ロザキ」「瀬戸ジャイアンツ」「マリオ」「アリサ」「イタリア」「紫苑」「ルーベルマスカット」「ロザリオロッソ」「シャインマスカット」 (3) 巨峰系4倍体品種 「巨峰」「ピオーネ」「安芸クィーン」「翠峰」「サニールージュ」「藤蔭」「高妻」「白峰」「ゴルビー」「多摩ゆたか」「紫玉」「黒王」「紅義」「シナノスマイル」「ハイベリー」「オーロラブラック」 (「あづましずく」等の巨峰系4倍体シードレス品種は該当しない) 4. 降雨や異常乾燥(フェーン現象等による異常乾燥)の心配のない日を選んで処理すること。 5. 処理後の天候急変(降雨、異常乾燥)で本剤の吸収が不十分になるおそれがある場合には、ジベレリンを含む農薬の総使用回数の範囲内で再処理を行うことができる。なお、再処理に当たっては、関係機関の指導を受けること。 6. 本剤は樹勢の弱い樹や登熟の悪い枝等に対しては、効果が不十分なので使用を避けること。樹勢がやや強めの方が安定した効果が得られるが、極端に樹勢が強い場合はかえって効果が出にくいので樹勢の管理には十分気をつけること。栽培管理については、関係機関の指導を受けることが望ましい。 7. 本剤の使用により、着粒が安定するとともに果粒の肥大が促進されるので、着粒過多(過密着)による裂果発生のおそれがある。また、果梗が硬化し脱粒しやすくなるので、裂果や脱粒を未然に防ぐため、開花前の整房や着粒後の摘粒等の栽培管理を適切に行うこと。栽培管理については、関係機関の指導を受けることが望ましい。 8. 使用時期や使用濃度を誤ると、花振い、着粒過多(過密着)、有核果混入等のおそれがあるので、使用時期、使用濃度は厳守すること。 9. 無種子化を目的とした着粒前の処理の際は、特にていねいに処理することを心がけ、薬液が花蕾全体に十分いきわたるよう注意すること。 10. 果粒肥大促進を目的とした着粒後の処理の際は、薬液が付きすぎないように、処理後ぶどうの枝やぶどう棚の針金を軽く振って余分な薬液を落とすこと。 11. 本剤をぶどう(2倍体米国系品種)に無種子化・果粒肥大促進の目的で使用する場合、第2回目処理を浸漬で行うときは100ppmで処理すること。また、第2回目処理を散布で行うときは75～100ppm(80～100L/10a)で処理する。散布で行う場合、散布処理は浸漬処理に比べ果粒肥大がやや劣ることがあるので、健全な樹に対して行い、薬液が果房に十分かかるように注意すること。 12. 本剤とストロプトマイシン剤を併用することで無核果率の向上を図ることができる。使用に当たっては、			
			デラウェア[無核栽培]				
			巨峰系4倍体品種[無核栽培] (サニールージュを除く)				
			巨峰系4倍体品種および2倍体欧州系品種[無核栽培] (サニールージュを除く)				
		無種子化	巨峰系4倍体品種[無核栽培] (サニールージュを除く)				
			2倍体欧州系品種[無核栽培]				
		果粒肥大促進	2倍体米国系品種[有核栽培] (キャンベルアーリーを除く)				
			ヒロハンプルグを除く2倍体欧州系品種[有核栽培]				
		ぶ ど う	フルメット液剤 (ホルクロルフェニユロン液剤)		着粒安定	巨峰系4倍体品種および2倍体欧州系品種[無核栽培] (サニールージュを除く)	1. ジベレリン以外の薬剤との混用は避けること。なお、ジベレリンと混用する場合は、ジベレリンの使用上の注意事項に留意し、ジベレリン溶液に、本剤が所定濃度になるように添加し、よく攪拌してから使用すること。 2. 調製した薬液は効果の低下のおそれがあるので、調製当日に使いきること。 3. 処理後の降雨は効果を減ずるので、降雨が予想される場合は処理しないこと。また、異常な高低温、多雨、乾燥等異常気象の続くときは使用しないこと。 4. ぶどうに関する作物名中の区分は、ホルクロルフェニユロンに対するぶどうの反応性の違いを考慮した区分なので、ぶどうの品種がどの区分(品種群)に該当するか、関係機関に確認してから使用すること。 5. 下記6.の「ぶどうの品種による区分」に記載のない品種に対して本剤を初めて使用する場合は、関係機関の指導を受けるか、自ら事前に薬効及び薬害を確認した上で使用すること。 6. ぶどうの品種による区分 (1) 2倍体米国系品種 「デラウェア」「マスカット・ベリーA」「アーリースチューベン(パッファロー)」「旅路(紅塩谷)」 (2) 2倍体欧州系品種 「ロザリオ ピアンコ」「ロザキ」「瀬戸ジャイアンツ」「マリオ」「アリサ」「イタリア」「紫苑」「ルーベルマスカット」「ロザリオロッソ」「シャインマスカット」 (3) 巨峰系4倍体品種 「巨峰」「ピオーネ」「安芸クィーン」「翠峰」「サニールージュ」「藤蔭」「高妻」「白峰」「ゴルビー」「多摩ゆたか」「紫玉」「黒王」「紅義」「シナノスマイル」「ハイベリー」「オーロラブラック」 (「あづましずく」等の巨峰系4倍体シードレス品種は該当しない) 7. 本剤の使用により、着粒過多による裂果、着色遅延、果粉の付着不良、糖度低下や果梗の硬化による脱粒等果実品質に悪い影響を及ぼすおそれがあるので、使用に当たっては開花前の整房、着粒後の摘粒及び結果量調整等の栽培管理を適切に行うこと。栽培管理については、関係機関の指導を受けることが望ましい。 8. 使用時期や使用濃度を誤ると、有核果混入や果面障害(果点のコルク化)、着色遅延及び果色変調等のおそれがあるため、使用時期、使用濃度は厳守すること。 9. 降雨や異常乾燥(フェーン現象等による異常乾燥)の心配の無い日を選んで処理すること。 10. 処理後の天候急変(降雨、異常乾燥)で本剤の吸収が不十分になるおそれがある場合には、ホルクロルフェニユロンを含む農薬の総使用回数の範囲内で再処理を行うことができる。なお、再処理に当たっては、関係機関の指導を受けること。 11. 樹勢が健全か、強い方が安定した効果が得られるので、樹勢は強めに維持する。樹勢の弱い樹では効果が不十分なので使用を避けること。 12. 使用目的が異なる場合でも、ホルクロルフェニユロンを含む農薬の総使用回数は、2回以内(但し降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内)とする。
						マスカット・オブ・アレキサンドリア[有核栽培]	
2倍体米国系品種[無核栽培]							
デラウェア 露地栽培[無核栽培]							
果粒肥大促進	デラウェア 施設栽培[無核栽培]						
	巨峰系4倍体品種[無核栽培] (サニールージュを除く)						
	デラウェア 露地栽培 施設栽培 [無核栽培]						
	2倍体米国系品種[無核栽培]						
	2倍体欧州系品種[無核栽培]						
	すべての品種 [有核栽培] (2倍体米国系品種、巨峰系4倍体品種、2倍体欧州系品種 (マスカットオブアレキサンドリアを除く))						
	巨峰系4倍体品種および2倍体欧州系品種[無核栽培] (サニールージュを除く)						
	無種子化						
	果粒肥大促進						
ジベレリン処理適期幅拡大	デラウェア 露地栽培 施設栽培 [無核栽培]						

ぶ ど う	ビーエー液剤 (ベンジルアミノプリン液剤)	花振り防止	デラウェア (ハウス栽培)	1.調製した薬液は放置すると効果が低下するため、調製当日に使いきる。また調製液は日陰に置く。 2.花振るい防止に使用する場合は、常に花振るいが発生する園のみ使用する。ハウス初年度の樹には使用しない。 3.無種子化処理の第1回ジベレリン処理液に混用して処理時期を拡大する場合、ジベレリン単用処理適期より3～4日早く処理することができるが、ジベレリンの使用上の注意事項を遵守する。 4.必ず処理適期・所定濃度を守る。処理時期が過ぎたものには使用しない。所定の処理時期から遅れて処理すると着粒過多、果粉の付着不良、果房の着色不良などのおそれがある。 5.ジベレリン処理液に添加した際、よく攪拌してから使用する。
		無核化処理の第1回ジベレリン処理時期の早期への拡大	デラウェア (露地栽培)	
ぶ ど う	ストマイ液剤20 アグレプト液剤 (ストレプトマイシン液剤)	無種子化	ぶどう	1.高濃度で使用すると果粒に対してクロロシスを生ずることがある。 2.高温時の使用は薬害の生ずるおそれがあるので避ける。 3.第1回ジベレリン処理との併用は、使用時期が満開予定日の14日前～満開期の範囲外の場合は使用しないこと。
な し	ジベレリンペースト (ジベレリン塗布剤)	熟期促進	日本なし	1.添付されているアタッチメントと筆を用い、果梗部へていねいに塗布する。 2.薬剤が効果の果面に付着すると、汚れなどの薬害の原因となる場合があるので注意する。 3.塗布する量が多いとペーストが溶けて果面に付着し、さびとなるので適量を塗布するよう注意する。 4.塗布が偏ると果型が乱れるので均一に塗布する。 5.処理によって熟期が3～7日早くなるので、収穫適期を失しないよう注意する。とくに促進された期間よりも早く収穫することのないように注意すること。 6.栽培管理、肥培管理などの不十分な園や異常天候の時などは十分な効果が得られない場合があるので使用しない。 7.樹勢の弱い樹では効果が十分に現れないことがある。 8.連年使用で樹勢の弱る場合があるので、樹勢の維持強化を図る。 9.二十世紀においてゆず肌が発生が多い樹には使用しない。
な し	エスレル10 (エデホン液剤)	熟期促進	幸水 二十世紀 豊水 新水	1.総使用回数は1回なので、30～35mmの時期（満開後60～70日頃）に散布した場合は、60mm以上の時期（満開後100日頃）に散布しないこと。 2.石灰硫黄合剤やボルドー液など、アルカリ性農薬との近接散布は効果を低下させるおそれがあるため7～10日以上の間隔を置く。また、アルカリ性の水での希釈は避ける。 3.他の農薬とは混用しない。また本剤散布後に一般農薬を使用する場合は2日程度あけるのが望ましい。 4.樹勢の弱い樹や、生理障害、ユズ肌が発生しやすい樹、幼木などには使用を避ける。 5.30℃以上の高温時や高温が数日続く時、あるいは干ばつ気味の時、雨あがり直後の使用は避ける。 6.散布直後に降雨があった場合でも再散布はしない。 7.二重散布やスピードスプレーヤーでの散布は薬害の危険があるので避ける。 8.展着剤は加用しない。 9.希釈した薬液はその日のうちに散布する。
いち じく	エスレル10 (エデホン液剤)	熟期促進	－	1.石灰硫黄合剤やボルドー液など、アルカリ性農薬との近接散布は効果を低下させるおそれがあるため7～10日以上の間隔を置く。また、アルカリ性の水での希釈は避ける。 2.他の農薬とは混用しない。また本剤散布後に一般農薬を使用する場合は2日程度あけるのが望ましい。 3.散布直後に降雨があった場合でも再散布はしない。 4.展着剤は加用しない。 5.希釈した薬液はその日のうちに散布する。 6.処理時期が早いと果実が萎縮したり、果肉が未熟のまま着色したりするため、処理時期を厳守する。 7.9月中旬までは1,000倍で、それ以降は気温が下がり効果が低下する傾向があるため500倍とする。 8.処理適期の目安として果皮色の緑色が抜け黄緑化し、目が紅色に盛り上がった状態の時期に行く。このときの果実内部の小果、果肉内部は淡いピンク色になっている。
キ ウ イ フ ル ー ツ	フルメット液剤 (ホルクコロフェニユロン液剤)	果実肥大促進	－	1.処理時期が早い場合には、変形果の発生、生理落果の増加、過剰肥大に伴う糖度低下を生じるおそれがあるので注意すること。 2.薬液が均一に付着するよう、ていねいに処理すること。 3.果頂部に薬液がたまり、その部分が過剰反応すると変形果発生につながるので、処理後、棚の針金等をゆすり、過量の薬液を振り落とすこと。 4.樹勢の衰弱を招かないように、結果量はやや少なくする。 5.処理果実は軟化がやや早い傾向がみられるので、無処理果実と区別する。
オ リ ー ブ	ターム水溶剤 (N A A水溶剤)	全摘果	交互結実栽培の 非収穫年樹	1.樹全体に散布する。 2.使用しても果実が少なからず結実する場合はあるが、その果実は確実に廃棄し、食用（飼料含む）に供しないこと。 3.調整した薬液はその日のうちに使用する。 4.散布条件によって薬効薬害に影響が現れやすいので他剤との混用は避け、時期を逸しないよう散布する。 5.散布直後の降雨は効果が減ずる要因となるので、天候を見極めてから散布し、重複散布は避ける。 6.樹勢の弱い樹では使用を避ける。 7.極微量で植物ホルモン効果を示すので周辺作物にかからないようにし、使用後の散布器具等は十分洗浄する。 8.充実した翌年の結果枝を育てることが目的なので灌水、施肥等の管理に注意する。 9.結果枝数が増えすぎた場合、翌春の剪定時に間引く。 10.使用した場合、新梢が多く発生するため、ハマキムシ類の発生に注意する。 11.使用した翌年の結実量は多くなるので、樹への負担回避のため、収穫時期を遅くしたり、取り残ししないこと。 12.葉を収穫する場合は使用しないこと。また、剪定枝の葉を食用（飼料含む）に供する場合も使用しないこと。
ト マ ト	トマトトーン (4-C P A液剤)	着果促進 果実の肥大促進 熟期の促進	－	1.芽や幼葉にかかるとその部分が萎縮したようになるので、芽や幼葉にかからないように噴霧する。 2.20℃以上の高温時には希釈倍数を100倍以上とする。 3.散布液の調製には、水道水等の清潔な水を用いる。 4.散布液は、使用のつど調合する。 5.他の農薬とは混用しない（使用回数のカウント方法が異なる）。 6.重複散布を避けるため、着色剤を併用する。
ミニトマト			－	7.処理後4～5日は35℃以上にならない。 8.使用する器具は、使用の前後によく水洗いする。

植調剤

植調剤

作物名	薬 剤 名	使用目的	品種及び作型	特 徴 及 び 注 意 事 項
ト マ ト (ミニトマト除く)	ジベレリン液剤 ジベレリン水溶剤	空どう果防止	－	1.落果防止剤使用後の散布は効果が劣るので、先に使用するか、併用して使用する。 2.ジベレリンの単用は、果実の肥大が劣るので、落果防止剤と併用する。

	(ジベレリン液剤・水溶剤) ・ジベラ錠 ・ジベラ錠5 ・ジベレリン液剤			3. 空洞果の発生時以外は使用を避ける。
なす	トマトーン (4-C P A液剤)	着果促進 果実の肥大促進 熟期の促進	ー	1. 芽や幼葉にかかるとその部分が萎縮したようになるのでかからないように噴霧する。 2. 散布液の調製には、水道水等の清潔な水を用いる。 3. 散布液は使用のつど調合する。 4. 他の農薬とは混用しない（使用回数のカウント方法が異なる）。 5. 濃度は高温になるにつれて薄くする。 6. 花卉は落下せず、灰色かび病の発生源となるので、開花4～5日後に除去する。 7. 未熟果に処理するとガク割れ、裂果が多くなるので注意する。 8. 重複散布を避けるため、着色剤を併用する。
いちご (促成栽培)	ジベレリン液剤 ジベレリン水溶剤 (ジベレリン液剤・水溶剤) ・ジベラ錠 ・ジベラ錠5 ・ジベレリン液剤	着果数増加 熟期促進	促成栽培	1. 苗は充実した健全なものを用いる。 2. ハウス内が日中高温になったり、処理時間がおくれると果梗が著しく徒長したり、不稔果・奇形果が発生することがあるので注意する。 3. 処理したいいちごの果柄がのび、花、果実が葉の上に出た頃寒波があると寒害を受けやすいので注意する。 4. 促成では、休眠に入ってからでは効果が期待できない。また、過剰処理は根の発育抑制やくず果を増加させるので注意する。 5. 処理は原則として晴天の日の午前11時～午後1時頃までに行う。 6. 散布液は使用のつど調合する。 7. 他の農薬とは混用しない。
いちご		果柄の伸長促進	ー	1. 処理したいいちごの果柄がのび、花、果実が葉の上に出た頃寒波があると寒害を受けやすいので注意する。 2. 処理は原則として晴天の日の午前11時～午後1時頃までに行う。 3. 散布液は使用のつど調合する。 4. 他の農薬とは混用しない。
アスパラガス	ビーエー液剤 (ベンジルアミノプリン液剤)	萌芽促進	夏秋どり栽培	1. 調整した薬液は放置すると効果が低下するため、調整当日に使いきる。また、調整液は日陰に置くように注意する。 2. 若茎にかかると奇形を生ずるおそれがあるので、茎葉下部への散布は控えること。 3. 茎葉に露のある時は、流亡し効果が劣るので使用は避ける。また、処理直後の灌水は避ける。 4. 他の農薬との混用は避ける。